

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年2月12日
【四半期会計期間】	第15期第2四半期（自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日）
【会社名】	デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社
【英訳名】	Digital Information Technologies Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 市川 憲和
【本店の所在の場所】	東京都中央区八丁堀四丁目5番4号
【電話番号】	（０３）６３１１－６５３２
【事務連絡者氏名】	取締役兼執行役員ＩＲ部長 小松 裕之
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区八丁堀四丁目5番4号
【電話番号】	（０３）６３１１－６５３２
【事務連絡者氏名】	取締役兼執行役員ＩＲ部長 小松 裕之
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第15期 第2四半期 連結累計期間	第14期
会計期間	自平成27年7月1日 至平成27年12月31日	自平成26年7月1日 至平成27年6月30日
売上高 (千円)	4,607,583	8,492,780
経常利益 (千円)	308,414	427,702
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	197,133	297,174
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	201,677	287,188
純資産額 (千円)	1,798,435	1,625,164
総資産額 (千円)	2,988,605	3,036,988
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	53.91	91.72
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	51.06	83.69
自己資本比率 (%)	60.2	53.5
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	218,993	294,661
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	2,328	10,901
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	190,044	45,082
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	918,098	886,921

回次	第15期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成27年10月1日 至平成27年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	28.42

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 当社は、第14期第2四半期連結累計期間については四半期連結財務諸表を作成していないため、第14期第2四半期連結累計期間に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
4. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。なお、当社は、前第2四半期連結累計期間については四半期連結財務諸表を作成していないため、前年同四半期連結累計期間との比較分析は行っておりません。

（1）業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善がみられ、緩やかな回復基調となっております。しかしながら、中国経済の減速をはじめ、新興国の景気の下振れ懸念やテロ事件の頻発などにみられる国際情勢への不安等による影響もあり、先行きが不透明な状況で推移しております。

情報サービス産業におきましては、金融業・製造業（自動車関連）を中心に、IT投資需要は総じて堅調であり、IoT（モノのインターネット）、マイナンバーやサイバーセキュリティリスクに対応するニーズが見込まれております。

このような状況の下、当社グループでは中期ビジネス展開として、幅広い事業領域で顧客との安定的な取引を目指す「事業基盤の強化」と、自社商品を軸とした新しい価値の提供による「成長要素の確立」という2軸の事業戦略を継続して推進しております。

中期ビジネス展開の初年度である平成28年6月期は、下記取り組みを推進しております。

■「事業基盤の強化」

今後も継続したIT投資が見込まれる金融業、通信業、製造業（自動車関連）の主要顧客に対して経営資源を集中することで、安定的な取引の量的・質的向上に向けた取り組みを行っております。

■「成長要素の確立」

昨今多発しているウェブサイト改ざん攻撃に対応した自社セキュリティ商品「瞬間検知・瞬間復旧ソリューション：WebARGUS（ウェブアルゴス）」と、IT予算がIT部門からユーザー部門へ移るなか、ユーザー部門のデータ活用業務を革命的に改善する「Excel業務イノベーションプラットフォーム：xoBlos（ゾブロス）」の拡販に向け、知名度アップのためのセミナーの開催や展示会への出展、販売力および商品力の強化に注力しております。

- ・「WebARGUS（ウェブアルゴス）」については、販売力強化として協業先サービス内での取扱いやOEM提供、商品力強化として顧客ニーズに合わせた管理機能強化版およびWindows®版の開発を行っております。さらにIoTへの取り組みに関しては、正式なプロジェクトを発足し、製品開発着手に向けて具体的なビジネス化の検討および技術調査を推進しております。

- ・「xoBlos（ゾブロス）」については、販売力強化として有力代理店との業務提携、商品力強化として協業他社製品と連携したソリューションの提供、および顧客ニーズに応えた商品ラインナップの拡充を順次行っております。

（注）Windows®およびExcel®は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

（注）IoT（Internet of Things：モノのインターネット）とは、コンピュータなどの情報・通信機器だけでなく、世の中に存在する様々なモノに通信機能を持たせ、インターネットに接続したり相互に通信することにより、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行うことをいいます。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高4,607,583千円、営業利益294,164千円、経常利益308,414千円、親会社株主に帰属する四半期純利益は197,133千円となり、売上高通期達成率は52.3%、純利益通期達成率は66.3%となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。

なお、以下の事業別売上高、セグメント利益（営業利益）は、セグメント間の内部取引相殺前の数値であります。

ソフトウェア開発事業

ビジネスソリューション事業分野においては既存顧客を中心とした受注および要員調達が堅調に推移し、エンベデッドソリューション事業分野においては、車載機器組込系を中心に想定以上の伸びで推移しております。自社商品事業分野は、代理店数増・業務提携推進等の施策により、堅調に推移しております。

これらの結果、ソフトウェア開発事業の売上高は4,212,295千円、セグメント利益（営業利益）は243,245千円となりました。

コンピュータ販売事業

子会社である東洋インフォネット株式会社においては、増員した営業マンの育成を進める中で、「カシオ楽ー」のリプレースおよび既存ユーザーへのセキュリティ製品等の追加販売が好調に推移しました。

これらの結果、コンピュータ販売事業の売上高は397,931千円、セグメント利益（営業利益）は49,401千円となりました。

(2) 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産、負債及び純資産の状況は以下のとおりであります。

流動資産

当第2四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ49,704千円減少し、2,251,948千円となりました。これは、主に現金及び預金が31,177千円増加し、受取手形及び売掛金が62,255千円並びに商品が10,270千円それぞれ減少したことによるものです。

固定資産

当第2四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ1,321千円増加し、736,657千円となりました。これは、主に有形固定資産が6,718千円減少し、投資その他の資産が8,673千円増加したことによるものです。

流動負債

当第2四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ212,857千円減少し、865,688千円となりました。これは、主に未払法人税等が15,447千円増加し、買掛金が8,498千円及びその他の負債が84,690千円それぞれ減少したことによるものです。

固定負債

当第2四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ8,795千円減少し、324,482千円となりました。これは、主に長期借入金が21,492千円減少し、退職給付に係る負債が15,160千円増加したことによるものです。

純資産

当第2四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ173,270千円増加し、1,798,435千円となりました。これは、主に資本金が21,540千円、資本剰余金が21,540千円及び利益剰余金が126,104千円それぞれ増加したことによるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ31,177千円増加し、918,098千円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の計上（308,414千円）、売上債権の減額による収入（62,255千円）、その他の負債の減額による支出（49,671千円）、法人税等の支払額による支出（94,337千円）などにより218,993千円の収入となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、無形固定資産の取得による支出（3,581千円）、保険積立金の積立による支出（16,067千円）、保険積立金の解約による収入（23,580千円）などにより2,328千円の収入となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の純減額による支出（100,000千円）、長期借入金の返済による支出（56,592千円）、株式の発行による収入（42,622千円）、配当金の支払額による支出（70,840千円）などにより190,044千円の支出となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

WebARGUS商品力拡充として、管理機能強化、Windows版の開発を進めるとともに、IoTへの対応として研究開発を行いました。当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は6,531千円であります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	6,200,000
計	6,200,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成27年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成28年2月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	3,695,055	3,701,455	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。また、単元株式数は100株であります。
計	3,695,055	3,701,455	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成28年2月1日から提出日現在までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成27年10月1日～ 平成27年12月31日 (注)1	27,000	3,695,055	4,050	426,096	4,050	432,154

(注)1 新株予約権の行使による増加。

2 平成28年1月1日から平成28年1月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が6,400株、資本金及び資本準備金がそれぞれ960千円増加しております。

(6) 【大株主の状況】

平成27年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
市川 憲和	横浜市南区	876	23.71
N I インベストメント株式会社	横浜市南区永田北 1 丁目 2 3 番 6 号	500	13.53
市川 聡	横浜市神奈川区	260	7.04
D I T 社員持株会	東京都中央区八丁堀 4 丁目 5 番 4 号 F O R E C A S T 桜橋 3 階	168	4.56
進藤 稔	神奈川県横須賀市	124	3.38
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社	港区浜松町 2 丁目 1 1 番 3 号	64	1.73
株式会社三菱東京 U F J 銀行	千代田区丸の内 2 丁目 7 番 1 号	50	1.35
株式会社横浜銀行	横浜市西区みなとみらい 3 丁目 1 番 1 号	35	0.95
カシオ情報機器株式会社	東京都千代田区九段北 4 丁目 1 番 7 号	35	0.95
中島 久幸	さいたま市大宮区	31	0.87
計	-	2,145	58.06

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年12月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式 (自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式 (その他)	-	-	-
完全議決権株式 (自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式 (その他)	普通株式 3,693,700	36,937	完全議決権株式であり、株主とし ての権利内容に何ら限定のない当 社における標準となる株式であり ます。また、単元株式数は100株 であります。
単元未満株式	普通株式 1,355	-	-
発行済株式総数	普通株式 3,695,055	-	-
総株主の議決権	-	36,937	-

【自己株式等】

平成27年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

なお、当四半期報告書は、第2四半期に係る最初に提出する四半期報告書であるため、前年同四半期との対比は行っておりません。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成27年10月1日から平成27年12月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年7月1日から平成27年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	886,921	918,098
受取手形及び売掛金	1,192,104	1,129,848
商品	48,924	38,653
仕掛品	111,216	115,592
その他	62,624	60,694
貸倒引当金	138	10,939
流動資産合計	2,301,652	2,251,948
固定資産		
有形固定資産	238,410	231,692
無形固定資産	28,567	27,933
投資その他の資産		
その他	475,359	484,033
貸倒引当金	7,003	7,003
投資その他の資産合計	468,356	477,030
固定資産合計	735,335	736,657
資産合計	3,036,988	2,988,605
負債の部		
流動負債		
買掛金	191,397	182,898
短期借入金	100,000	-
1年内返済予定の長期借入金	85,594	50,494
未払法人税等	113,235	128,682
受注損失引当金	16	-
その他	588,302	503,612
流動負債合計	1,078,545	865,688
固定負債		
長期借入金	82,258	60,766
退職給付に係る負債	235,103	250,264
その他	15,916	13,451
固定負債合計	333,277	324,482
負債合計	1,411,823	1,190,170
純資産の部		
株主資本		
資本金	404,556	426,096
資本剰余金	410,614	432,154
利益剰余金	840,465	966,570
自己株式	-	457
株主資本合計	1,655,636	1,824,363
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,288	1,489
為替換算調整勘定	3,037	2,938
退職給付に係る調整累計額	35,797	30,355
その他の包括利益累計額合計	30,471	25,927
純資産合計	1,625,164	1,798,435
負債純資産合計	3,036,988	2,988,605

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 7 月 1 日 至 平成27年12月31日)
売上高	4,607,583
売上原価	3,539,109
売上総利益	1,068,474
販売費及び一般管理費	774,309
営業利益	294,164
営業外収益	
受取利息	300
保険解約返戻金	11,811
その他	4,696
営業外収益合計	16,809
営業外費用	
支払利息	1,430
その他	1,128
営業外費用合計	2,559
経常利益	308,414
税金等調整前四半期純利益	308,414
法人税、住民税及び事業税	109,784
法人税等調整額	1,496
法人税等合計	111,281
四半期純利益	197,133
親会社株主に帰属する四半期純利益	197,133

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

		当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年7月1日 至 平成27年12月31日)
四半期純利益		197,133
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金		798
為替換算調整勘定		99
退職給付に係る調整額		5,442
その他の包括利益合計		4,543
四半期包括利益		201,677
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益		201,677

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年7月1日 至 平成27年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	308,414
減価償却費	13,258
貸倒引当金の増減額(は減少)	10,800
受注損失引当金の増減額(は減少)	16
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	23,194
受取利息及び受取配当金	300
支払利息	1,430
売上債権の増減額(は増加)	62,255
たな卸資産の増減額(は増加)	5,879
仕入債務の増減額(は減少)	8,498
未払金及び未払費用の増減額(は減少)	32,436
その他の資産の増減額(は増加)	7,447
その他の負債の増減額(は減少)	49,671
その他	12,932
小計	313,930
利息及び配当金の受取額	300
利息の支払額	900
法人税等の支払額	94,337
営業活動によるキャッシュ・フロー	218,993
投資活動によるキャッシュ・フロー	
投資有価証券の取得による支出	308
有形固定資産の取得による支出	1,042
無形固定資産の取得による支出	3,581
貸付金の回収による収入	1,342
保険積立金の積立による支出	16,067
保険積立金の解約による収入	23,580
敷金及び保証金の差入による支出	2,834
敷金及び保証金の回収による収入	100
その他	1,140
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,328
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額(は減少)	100,000
長期借入金の返済による支出	56,592
リース債務の返済による支出	5,234
株式の発行による収入	42,622
配当金の支払額	70,840
財務活動によるキャッシュ・フロー	190,044
現金及び現金同等物に係る換算差額	99
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	31,177
現金及び現金同等物の期首残高	886,921
現金及び現金同等物の四半期末残高	918,098

【注記事項】

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)
等を、第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたしました。加えて、少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前連結会計年度については、連結財務諸表の組替えを行っております。企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第2四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

財務制限条項等

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため株式会社三菱東京UFJ銀行をエージェントとするリボルビング・クレジット・ファシリティ契約(シンジケート方式)を締結しております。また、当座借越契約を取引銀行3行と締結しております。当該契約に基づく前連結会計年度末及び当第2四半期会計期間末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
リボルピング・クレジット・ファシリティ 契約の総額	600,000千円	600,000千円
当座借越契約の総額	350,000	350,000
借入実行残高	100,000	-
差引額	850,000	950,000

上記の契約については、以下のとおり財務制限条項が付されており、これらの条項の一つでも抵触した場合、当社は借入先からの通知により、期限の利益を喪失し、当該借入金を返済する義務を負っております。

	前連結会計年度 (平成27年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
リボルピング・クレジット・ファシリティ 契約	・対象決算期の末日における単体の貸借対照表の純資産の部の金額が、対象決算期の直前の決算期の末日における単体の貸借対照表の純資産の部の金額と平成23年6月に終了する決算期の末日における単体の貸借対照表の純資産の部の金額のいずれか大きいほうの金額の75%の金額以上であること ・対象決算期に係る単体の損益計算書上の営業損益の金額が赤字でないこと ・対象決算期に係る単体の損益計算書上の経常損益の金額が赤字でないこと	・対象決算期の末日における単体の貸借対照表の純資産の部の金額が、対象決算期の直前の決算期の末日における単体の貸借対照表の純資産の部の金額と平成23年6月に終了する決算期の末日における単体の貸借対照表の純資産の部の金額のいずれか大きいほうの金額の75%の金額以上であること ・対象決算期に係る単体の損益計算書上の営業損益の金額が赤字でないこと ・対象決算期に係る単体の損益計算書上の経常損益の金額が赤字でないこと

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 7 月 1 日 至 平成27年12月31日)
給料手当	319,086千円
退職給付費用	21,751
貸倒引当金繰入額	10,800

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

当第 2 四半期連結累計期間 (自平成27年 7 月 1 日 至平成27年12月31日)

現金及び現金同等物の当第 2 四半期連結会計期間期末残高は、四半期連結貸借対照表の「現金及び預金」と同額となります。

(株主資本等関係)

当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 7 月 1 日 至 平成27年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1 株当たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年 9 月29日 定時株主総会	普通株式	71,029	20	平成27年 6 月30日	平成27年 9 月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間の末日後となるもの
該事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自 平成27年7月1日 至 平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ソフトウェア開 発事業	コンピュータ販 売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,210,555	397,028	4,607,583	-	4,607,583
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,740	903	2,643	2,643	-
計	4,212,295	397,931	4,610,227	2,643	4,607,583
セグメント利益	243,245	49,401	292,646	1,518	294,164

(注)1. セグメント利益の調整額1,518千円は、主にセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年7月1日 至 平成27年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	53.91円
(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	197,133
普通株主に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	197,133
普通株式の期中平均株式数(株)	3,656,794
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	51.06円
(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-
普通株式増加数(株)	203,684
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 2月10日

デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	遠藤 康彦	印
--------------------	-------	-------	---

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	茂見 憲治郎	印
--------------------	-------	--------	---

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているデジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社の平成27年7月1日から平成28年6月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成27年10月1日から平成27年12月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年7月1日から平成27年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社及び連結子会社の平成27年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注）1．上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2．X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。